

## 夏季集中セミナーに関するアンケート調査結果【抜粋】

企業の方々の技術者教育に大学がお役に立てるのはどの観点から、会員の皆様のニーズをお伺いいたしました。ご協力を頂きました皆様へ感謝申し上げますとともに会報を通じてその一部をご紹介します。

### アンケート実施概要

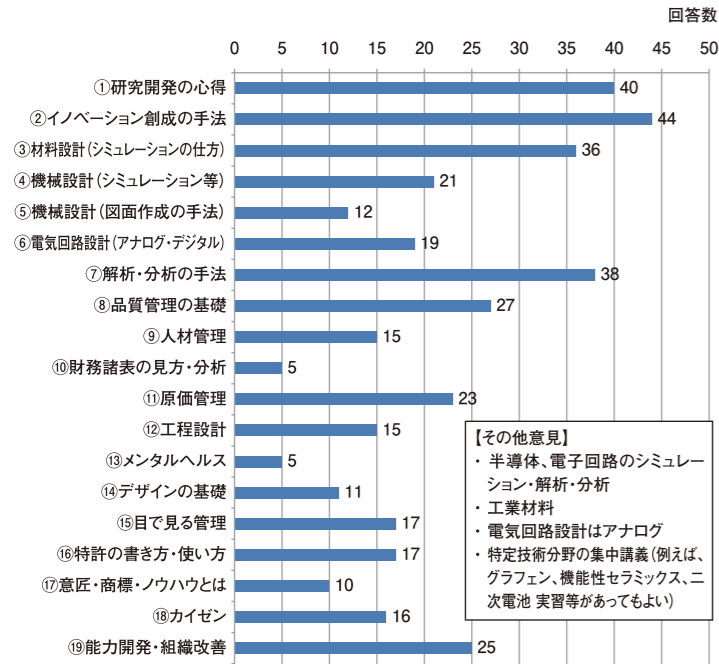
実施期間：平成24年9月26日～10月19日

実施方法：アンケート調査票を郵便・メール配信にて送付し回収

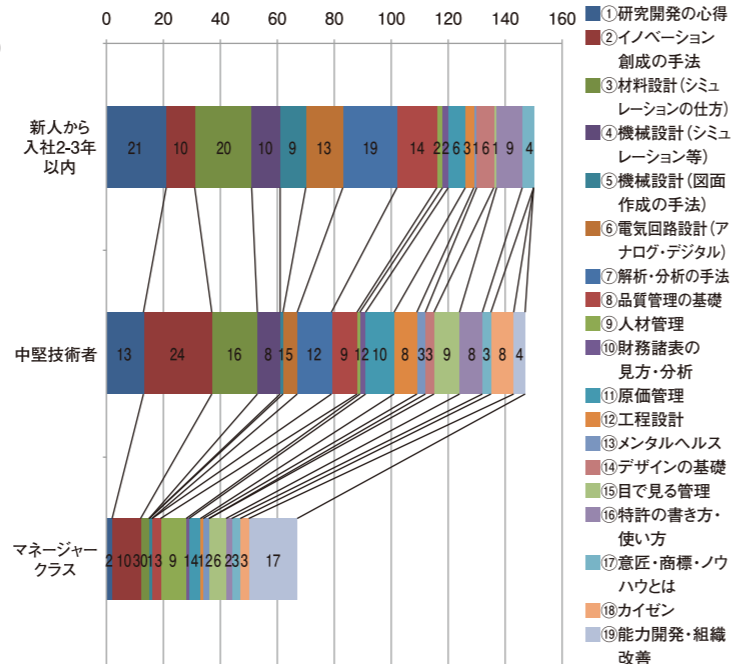
対象者：名古屋工業大学研究協力会会員企業・主催事業への参加者

回答数・回答率：回答数(99/275)・回答率(36%)

#### 1-1 研修テーマ



#### 1-2 研究対象者およびテーマ



## 研究協力会事務局より

皆さま新年おめでとうございます。

さて、昨年末には、安倍政権も誕生し日本の景気浮揚への期待が寄せられていますが、日本再生に向けた道のりは厳しい状況にあるといわれます。昨年はiPS細胞開発の功績で山中伸弥京大教授がノーベル生理学・医学賞に輝き、日本の科学技術のレベルの高さを内外に改めて示した事は記憶に新しいところであり、同時に、やはり日本再生のカギは科学技術の振興にあるという思いを再認識した出来事であったといえます。言うまでもなく日本の技術力については、例えばiPhoneひとつをとりあげても、かなりの部品が日本製といわれ、電子部品も多いが、一方では合成素材で作られている化学工業製品も多く使用されていることが指摘されるなど高い評価を得ております。今日の日本経済の稼ぎ手は、殆どが技術優位性を背景にしているといっても過言ではないといわれております。

こうした状況の中で、当研究協力会もたいへん微力ではありますが、「技術」を常に視野において、技術で困った時は先ず名工大の研究協力会にといわれるようにまた、その意味で会員の皆様の期待に応えられるように努力を重ねて参りますので、本年もどうぞよろしくご支援賜りますようお願い申し上げます。

### 今後の事業予定

第26回技術懇話会(エネルギー関係)  
4月23日(火)

平成25年度総会・特別講演会  
6月7日(金)

研究協力会助成研究会 随時

### 〈入会申込お問合せ先〉

**名古屋工業大学研究協力会 事務局**  
〒466-8555 名古屋市長区御器所町 名古屋工業大学 産学官連携センター内  
Tel, Fax: 052-735-5538 E-mail: kyoryoku-pal@adm.nitech.ac.jp  
\*研究協力会HPもご覧下さい。 <http://partner.ccr.nitech.ac.jp/> (行事案内・入会案内・事業報告は、このサイトで見ることができます。)  
\*ご担当者や連絡先(Tel, Fax, E-mail)が変更になった場合は、ご一報ください。

平成25年1月25日発行

## 改めて研究協力会の原点を問う

### 研究協力会会長・(株)デンソー特別顧問 石丸典生



研究協力会会長  
(株)デンソー特別顧問  
石丸 典生

新年明けましておめでとうございます。昨年末の衆議院選挙では3年余の民主党に信を無くした国民は、多党群立のなか再び自民党に国を託す結果となった。マニフェストを守られない、何事も決められない民主党に代わって、再び新総理になった安倍晋三の“国民の心をくすぐる勇ましいマニフェスト”で想定外の大勝を勝ち得たが、心配の種は尽きない。

しかし昨年は、山中伸弥教授が日本人として19人目のノーベル賞を受賞する快挙があり、原発事故で失墜した日本の科学技術に対する世界的な評価を幾らかでも回復できたことは嬉しいことであった。iPS細胞の研究にアメリカを始めとする諸国では莫大な資金でいち早く実用化を進めようとしているのに対し、山中教授は研究費の捻出に四苦八苦しているのは問題である。

大多数の国民が景気回復を望む声に応えた自民党の「インフラターゲット2%」「無制限の財政出動」の甘い言葉は、果たして日本を回復させられるのか?との疑問を覚えるのは私だけの懸念だろうか。最大の問題は総理を始め各大臣に信念と

説得力に欠けることである。通貨の価値は、国家の価値そのものである。企業も円安で楽に儲けるのではなく、円高でもどうすれば利益を上げられるかに全力を集中すべきではなかろうか?震災復興に名を借りて、インフラ投資で楽に、苦勞せずに景気回復を図るのは日本の将来にとって最大の問題である。豊かさや幸せは、苦勞せず楽に得られるものではなく、苦勞と努力の結果得られることを決して忘れてはいけない。

わが研究協力会の目的も決して「楽をして、得する」会ではなく、産学がお互いの力を合わせ、お互いに苦しみながら人々の幸せに貢献する「新しい価値」を創造することにある。シーズとニーズの調和を図り、技術的な問題を解決し、新商品を開発することが目的であり、産学が楽々と「良いとこ取り」をすることではない。本当の産学連携はシーズとニーズが一致した瞬間からスタートするのであって、ゴールではない。私たち研究協力会は、大学側のシーズと企業側のニーズの紹介から連携までをどうすれば上手く、効率良くできるかを探求するのが、関係職員の責務であると考えている。今後とも大学側のシーズを十分把握すると共に、多くの会員の参加を得ることで連携の機会を増やすことに全力を尽くす所存である。笑顔で「先憂後楽」に努めましょう。

### 〈お知らせ〉 平成25年度の総会は、6月7日(金)に、開催いたします。

目次：改めて研究協力会の原点を問う 研究協力会会長挨拶	1
第25回技術懇話会「次世代モビリティへの情報通信技術応用」開催報告	2
名工大・名市大テクノフェア2012開催報告 他	3
夏季セミナー開催アンケート結果報告 他	4